

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

歴史への興味

四條畷で知り 大東で嵌まる

今回の「わたしは市民学芸員」は、ためのりてる為則照子さんです。4年前の創刊号の表紙を飾ったのはこの人の「あちら」為則泰明さんでした。来館はたいはいお二人で、ですので、改めてお話を伺うのは、初めてではなかったか、と思います。

為則照子さん
南新田 在住

・まず、市民学芸員になつたきっかけは？
以前は、歴史にほとんど興味がなかったのですが、実は四條畷の歴史民俗資料館の特別展、田原レイマン（田原城主でキリシタン）の墓碑をみて感激し、歴史って案外おもしろいかも、と思えたのです。その後すぐに住まいのある大東市にも歴史民俗資料館があることがわかり、興味深い講座にはほとんど参加しました。ここ大東市にもいろんな歴史があるのだと知り、いつのまにかここにいます。（笑）

・ようこそお越しくださいました（笑）。確か何年前かに引越してこれられたんですよね？
7年ほど前になります。



わたしは市民学芸員

自然や野鳥大好き、大東市に来てよかった、と為則照子さん

辺にしては大雪が降った日も登りましたよ。（三頁に写真）

自然や野鳥は好きです。大東以前は住之江区に住んでいて、近くにある野鳥園にはよく行きましたが、ここ大東では山のほうへ行く点でも引越してきてよかったなと思いました。

・それでの前の市民学芸員展では、お寺や神社にある「樹木」をテーマに

されていたのですか？

大東市内に限らず、お寺や神社に行くとき大きな木があって、訪れる度に「立派な木だなあ。これから先もずっと残してほしいな」という思いで眺めていました。樹木にもスポットをあててやりたいと思い、展示に先駆けて、お寺や神社にある市指定樹木の幹回りを測り、記録をとりました。当たり前ですが、確実に成長をしていることがわかり、嬉しかった。今まで足を運んだことがないところにも行って楽しく作業ができました。

・こちらも楽しかったです。ところで、みなさんからも質問がくると思うのですが、夫婦円満の秘訣について教えてください。

「秘訣」というか…お互い好きなようにやっているだけです。（笑）市民学芸員としてはいつも一緒になので、いっつも、と思われられるでしょうが、私は、友だちと映画やショッピングに行きますし、あちらはあちらで、好きなことをやってい

（次頁下段につづく）

新たな市民学芸員 を迎えます

平成25年4月から月1回受講していた、大東市立歴史民俗資料館の「市民学芸員講座受講生」がこの3月めでたく修了されました。

左の写真は修了証書を手に入れた10人の方で、その年齢差はなんと60歳以上！そんな皆さんを見ると、4年前の私たちを思い出し、その「初々しさ」を、今ふたたび、の感です。皆さんと一緒に活動しましょう。合流、初顔合わせの4月26日、楽しみにお待ちしております。



あすに向かつて
研修中

市民学芸員

研修会は
楽しい

ひいらぎと雪の高野山

水永 八十生

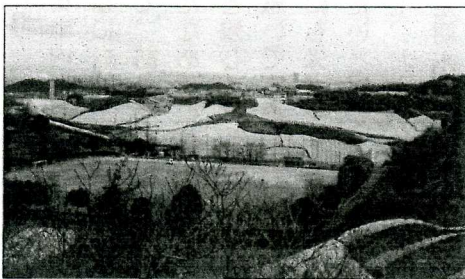
冬をむかえた十一月末、私たち市民学芸員の、高野山をたずねる研修があった。数日来の雪が残り、その日も時折雪が舞った。考古学の研究者でもある僧侶が終日案内してくれた。供養塔が並ぶ奥の院の地下の発掘調査の話も聞いた。地下には小さな二石五輪塔が重なり合っていて埋まっているそうだ。中世の葬送の一端を知ることができた。



高野山金剛峯寺の門にあった終（ひいらぎ）の小枝。オーディオガイド標識の右

古墳と竹内街道のまち
羽曳野市へ

2月18日、笠井館長の案内で羽曳野市を学芸員の皆さんとともに訪れました。小高い丘からの眺めは手前の古墳群とともに飯盛山から泉南まで大阪平野を一望でした。そのほか、梅酒とブドウ酒、竹内街道や「堂山」に似た「大谷古墳」。聖から俗までなんでもありの1日「研修」でした。



（聞き手 大西京子）

・お手製のニットをナチュラルに着こなす反面、山登りや自転車でも町中を駆け回るアクティブな一面も
お持ちの為則照子さん。いつまでも私たちの存在でいてくださいなね。

魔除けに終の小枝を使う風習は、アイルランドのケルト社会でもクリスマスから新年にかけて行われるそうだ。ニンニクなどの強い臭いを魔除けとして使う例になると、古代ローマをはじめヨーロッパや中央アジア、インドなど世界中にあるとのことだ。

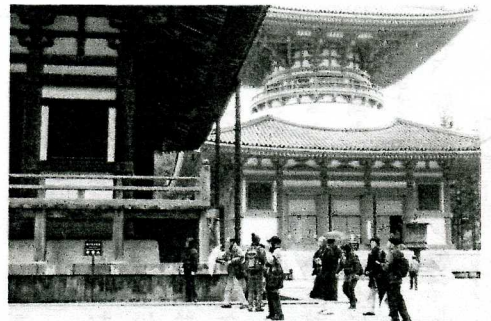
高野山
1日修業体験

11月28日、高野山行きの市民学芸員研修に参加しました。大門から根本大塔、金剛峯寺、霊宝館、そして奥の院まではお決まりのコースですが、そこは笠井敏光館長企画。粉雪の舞う中、うすい衣だけの僧侶による意味の濃い案内。しかし何よりよかったのは「授戒」でした。薄日すら入らない暗闇の本堂。わずかな蠟燭の揺れる灯り。数人の僧侶によって朗々と授けられる「十善戒牒」。生きていくうえで十の戒め。しかもその一時間近くの修業の終わりに「せめて今日だけでも戒めを守るように」との包容力のある、慈悲深い仏のおさとしでした。



▲ 聖地高野山、まず大門の前で説明を受けました。町石道を辿って登ってきたのでなく、お土産物屋さんが仕立てたバスから降り立った、市民学芸員一行。

▼根本大塔の前の私たち。



（前頁よりつづく）
ます。この活動に参加させていただいて共通の話題があるのはいいと思えます。
・最後に今後やってみていことがあれば教えてください。

具体的これというのはありませんが、常にアンテナを張って、情報を得ることは今後も心がけていきたいです。常に刺激を受けたいし、探究心は忘れないでいようと思えます。ちょっとかっこ良すぎるかな（笑）
・ありがとございます。

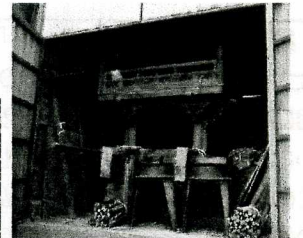
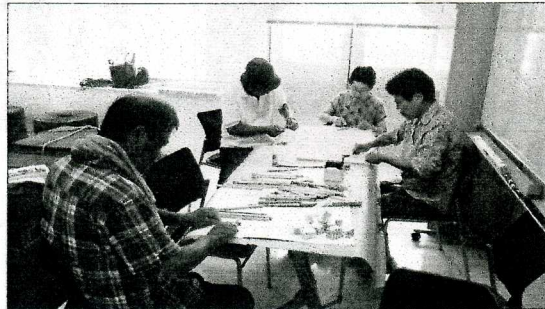
平成25年度企画展
 「大東のたんじり」の展示準備をしました



北条・中之町の地車。幕を展示する際、ほつれて弱くなっている部分を補修しました。

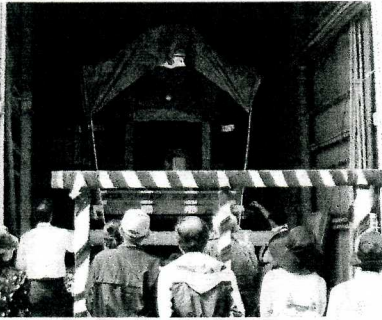
昨年8月から10月まで、平成25年度企画展「大東のたんじり」が開催されました。市民学芸員は、現地調査や展示準備などで出番がたくさんありました。

現地調査では、地車庫に收藏されてあるたんじりを間近に見、お話を聞くことが出来ました。ありがとうございました。



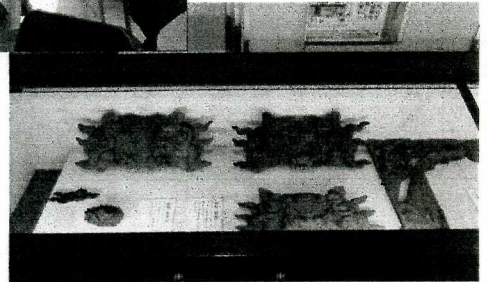
地車庫に収められている深野西のたんじり

太子田での、たんじり聞き取り調査。地車保存会の方からお話を聞きました。



▲深野西の地車。外された彫物のほこりを落としてクリーニングします。

▶クリーニングが終わった彫物は、展示ケースに収まり、みなさんに見ていただきました。



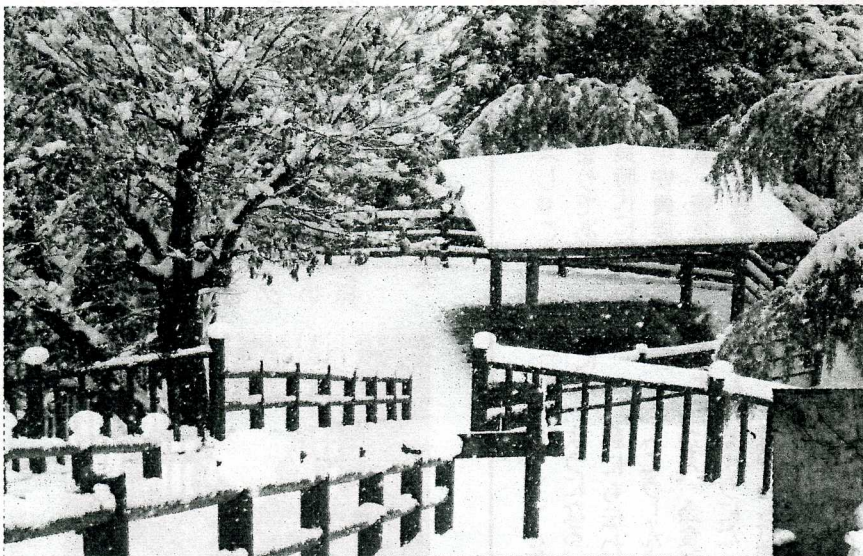
市民学芸員

雪に向かって走る



2月14日。100年ぶりかの寒波襲来。大雪警報。市民学芸員お二人（組）が目指すところは同じ、それぞれの大東史跡でした。

雪の堂山古墳群史跡広場へ



この日を待っていました。堂山古墳群史跡広場にあがると、雪上の足跡が見当たらないので、この日一番乗りでした。ケイタイで為則さんに電話してみると、その時。飯盛山にご夫婦でおいででした。妙な連帯感をもちました。
 水永八十生



雪の飯盛山へ

雪の中、飯盛山に上がりました。何十年ぶりか、小さいですが雪ダルマを作るなど楽しみました。
 為則泰明 為則照子

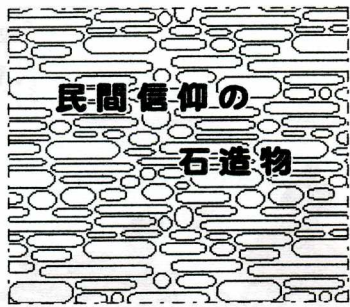


その2

み～つけた

一祈りと民話をめぐる一

大東市内のお寺や神社、そこにある指定樹木、民間信仰の石造物、民話や伝説スポットなどを市民学芸員の視点でとりあげました。その一部を紹介します



調査した石造物など

山神、不動、役行者、庚申塔、道祖神、かさかみ、地金神、水神、歯の神、市の指定文化財の石仏、寶頭廬尊者像。

第2回 市民学芸員展「こんな大東み～つけた」は昨年の第1回に続き、平成26年1月25日から3月16日まで行われました。この項はこの展示に至る、私たちの作業のあとと展示内容を振り返ってみました。



北條神社近くの山神

私たちはたくさんある石造物から主な種類を選び、所在や由来を探りました。古より人々は何を思い何に願いを託してきたのかを知ろうとすることでありました。これらの石造物調べから、石造物が「遺物」ではなく、古くより祀りが続けられて今日に至っている「現在のもの」でもあることを再認識することになりました。

庚申塔

大東市史に「鳳字寺のすぐ北側に南向きに建てられており、花崗岩製で高さ一五三塔、巾四六塔の屋根付の角柱塔である。そして塔身のほぼ中央に、「Myōō」、「Shōō」、「Myōō」、「Shōō」の三猿、その下に鶏の一番（ひとつが）が彫られている。このような三猿二鶏の角柱塔は全国的に見られ、その多くは、江戸時代のものでいわれる。」と庚申塔の説明をし、庚申信仰は道教の三尸説（さんしせつ）を起源とする信仰であると記述している。

人間の体内には霊的な三匹の虫（三尸）がいる。

月の地藏盆調査から始まり、九月、十月の探燈護摩の見学、十一月は、不動や道祖神、地藏、水神など確認し直しました。じっくり見直すと、今まで気付かなかったことや表面的理解ですませていたことなどが分かってきて、踏査活動のおもしろさと奥深さを感じることができました。

（民間信仰と石造物チーム）

びんずる様

釈迦の弟子で寶頭廬尊（びんずるそん）は「びんずる様」と呼ばれ、身近な仏さまとして信仰されています。病者の患部と同じ部分をなでると病が治ると言われ、野崎観音さんの正面西側にも、椅子に座って本堂の下座にひかえておられます。今日、ハイキングやお参り時になでられ、木目が出ていますが、病を治すため多くの人が参拝されています。

氏原 稔夫



大東市中垣内鳳字寺前にある、三猿と鶏が彫られた庚申塔

庚申（干支六十種類の五七番目）の夜、寝ている間に三尸が体から抜け出し、人間の悪事を天帝に報告する。この夜は寝ないで慎もうという「守庚申（しゅこうしん）」が、日本には奈良時代に伝わった。平安貴族たちは、基・詩歌・管弦の遊びを催す「庚申御遊（こうしんぎょ）」

「ゆう」と称する宴をはるようになる。やがて武士階級にも伝わり、「庚申待（こうしんまち）」と名をかえ、会食談議して徹夜するようになった。ここまでは神仏に祈願する事はなかった。

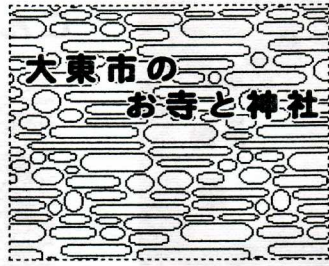
室町期あたりから青面金剛や猿田彦神と結びつき、本尊とされた。「庚申講」が組織化され、神仏に供養することで禍から逃れ、現世利益を得ようという形への変化が見られた。この民間信仰は江戸時代に最も盛んになり、庶民の遊興の一夜となった。しかし大正時代以降は急速にその信仰が失われた。

上野 繁

第2回 市民学芸員展

こんな大東

- ・民間信仰の石造物
- ・お寺と神社
- ・保護樹林と樹木
- ・民話と言い伝え



自転車に乗って
お寺と神社を
くまなく回る

今回、社寺仏閣チームで大東市内にはどのくらいのお寺がどこにあるかを、市内地図を片手に大東市内をくまなく自転車で訪ね回ることに挑戦しましたが、こんなに沢山お寺さんがあるとは知らなかった。

最初からその地にお寺があったと思うが、なかには道場からスタートし、お寺になった所もあるとは知



龍間 称迎寺を訪れる「神社仏閣チーム」

らなかった。

以前から堂山古墳群の案内ガイドの次に行く場所が野崎参りを紹介するために専心寺さんの太子堂を訪れて説明しているときに、詳しく専心寺さんのことを聞かれたら困ったなあと思いつながり説明していた記憶がよみがえって来ました。

松井健一

大東市内の
お寺と
巡ってみて

大東市内の社寺を調べてみた。寺院だけをみれば、市域に総数三十五ヶ寺院があり、主に旧三街道に集中している。

東高野街道（十ヶ所）、河内街道（九ヶ所）、古堤街道（十三ヶ所）で、宗派

別では真宗大谷派（十二ヶ所）と浄土真宗本願寺派（九ヶ所）の浄土真宗系が圧倒的に多い。

ここで注目すべきことは、河内街道で、この街道にある寺院九ヶ所の内で大谷派は六ヶ所で、本願寺派の寺院は見当たらない。これは何を意味するのか。なお、本願寺派は東高野街道に多い。（四ヶ所）

宝永元年（一七〇四）

の大和川の付け替えに伴って、市域の新田開発が東本願寺・難波別院や大坂の豪商の資本によって開発が進められており、これに関係があることが窺える。おそらく東本願寺（真宗大谷派）門徒衆た

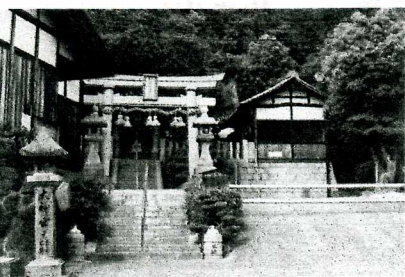


社寺の場所を大東市地図に記入してみる

ちによって開発が行われていったのであろう。そして、その門徒衆の宗教的・精神的な寄合の場としての当初道場であったものが、その後寺院として整理・発展していったものと考えられる。

※寺院数は平成二十五年三月末日現在

中村 義之



大東市の神社紹介
須波麻神社

（中垣内2丁目）

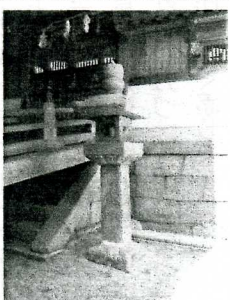
祭神 大国主命

平安時代の「延喜式」「神名帳」にみえる、文献上では市内で最も古い歴史をもつ神社です。

本殿前には延宝二年（1674）銘の燈籠、また境内前には文政一三年（1830）銘の燈籠などをみる事ができます。

後者のものは、道標を兼ねたおかげ燈籠で、東高野街道沿いから移設されました。

また、秋祭には氏子の人々による「にわか芝居」が演じられ、現在、大東市内では珍しいものになっています。



▶ 本殿前の延宝2年銘の燈籠

▲ 須波麻神社

